

京都商工会議所の動き

京都商工会議所 今年のチャレンジについて

「ニュー京商ビジョン」の節目の3年目となる今年1年を見通し、本所が取り組むべき課題について、お話しさせていただく。

本所にとっては、次の成長に挑戦する事業者へのサポートが第一の使命である。4月からスタートする新年度の事業計画に具体策を落とし込めるよう、事務局で検討作業を進めているが、それに先だち、事業計画の3つの重点的取り組みについて報告したい。

まず1つ目は「知恵産業創出支援」である。現在、「知恵ビジネスプランコンテスト」の書面審査が進められている。新年度は、コンテストにおいて認定したプランを中心に、知恵ビジネス事業化に向けたハンズオン支援、情報発信などによる顧客創造支援をより一層、充実・強化しようと考えている。

2つ目に「アジア内需の取り込み支援」に力を入れていきたい。中国をはじめアジアは、世界の成長センターとして注目が集まり、昨年、中国の上海・成都・西安に派遣した本所の会頭ミッションでも、旺盛な中国の内需を実際に目の当たりにした。そうしたアジアの内需を取り込むため、中小企業の中国・アジアビジネス拡大を支援し、アジア観光客の誘致やMICE需要の取り込みを促進していきたい。

3つ目は「地球環境問題への取り組み」を推進していきたい。CO2を増やしながら成長してきた時代は終わり、これからはCO2を減らしながら成長させていく時代となる。京都には、暮らしや住まい、まちづくりに、自然と共生する大切さが生かされ、伝統工芸などの中小企業が、それらのニーズを創造し、応えてきた「内需経済のモデル」がある。こうした強みを活かして、地球温暖化対策をオール京都で推進し、環境分野でのイノベーションに積極的に挑戦していきたい。

新年度の事業計画については、この3つを重点的な取り組みと捉えているが、今後、部会・委員会からのボトムアップの意見などを取り入れながら、具体策を肉付けし、3月の議員総会において正式に決定する。

京都 知恵と力の博覧会の参加者数と「感謝の集い」について

記者配布資料

昨年実施した「京都 知恵と力の博覧会」の参加者数を報告する。会期中に、808件の協賛事業が実施され、それらへの来場者数は、延べ人数で630万人となった。経済効果は、参加者の観光消費額を中心に算出した結果、547億円となった。

いずれも当初の目標を大きく上回り、知恵博の効果が、観光需要の創造と雇用の創出、さらには新型インフルエンザによる風評被害などによる観光の落ち込みを下支えしたと考えている。

なお、それらの協賛事業を主催した企業・団体などを招き、「感謝の集い」を2月2日の午後5時から開催することとした。事業報告を行い、協賛事業の主催者には、知事・市長・会頭連名の感謝状を贈呈することとしている。

また、知恵博の成果は、来場者数やそれによる経済効果だけでなく、行政、経済界などが、危機感を共有し、企画立案段階から連携して取り組めたことだ。8月には新たな観光振興事業の「京の七夕」を実施することになるが、そうした知恵博の成果を活かしていきたいと考えている。

今回は特に産業界から多くの協賛事業の協力をいただいたので、今後の産業観光への取り組みが可能になったように考えている。

京都の景況について

本所の経営経済動向調査（BSI 調査・10～12月期）では、引き続き大企業製造業を中心に生産・売上の回復が進んでおり、季節的な要因もあり小売業などでも受注や売上が改善している。大企業を中心に企業収益の改善の兆しが見られる。

しかし、特に中小企業は厳しい見方が目立っており、デフレや為替、低調な設備投資動向など、足もとの不透明感を反映して先行きは水面下の動きにとどまり、全体として持ち直し基調にあるとはいえ、慎重な見通しとなっているようである。

そのためにも、鳩山政権には、まずは追加経済対策や新年度の予算編成など、スピード感をもって施策を実行いただきたい。また、中長期的なビジョンが示されていないことが、国民や事業者の不安に繋がっている。持続可能な社会保障制度を確立するための税制・財政の一体改革や、成長戦略の具体化に向けた工程表など、中長期の数十年先を見据えて、生活基盤と産業基盤の両軸で大きな国家戦略・ビジョンを描くことが求められている。

記者からの質問事項

知恵博の成果をどのような形で今後活かしていくか？

知恵博の総括は2月2日の総会で予定しており、その時の議論が答えになる。今のところは、今回のような形で、毎年継続するのは非常に難しい。今年は、オール京都体制で、「京の七夕事業」に全力をあげる。3年、5年の節目で、知恵博を開催するかどうかを、オール京都で議論していきたい。

以上

府政記者室、市政記者クラブ、経済記者クラブ 資料配付

平成22年1月26日
 京都 知恵と力の博覧会推進協議会
 TEL : 075-212-0089

京都 知恵と力の博覧会 開催結果の取りまとめ及び「総会」「感謝の集い」の開催について

京都 知恵と力の博覧会において、昨年10月10日(土)から12月20日(日)まで72日間にわたり、京都企業の工場・工房の特別公開や伝統産業の体験、寺院・神社の特別公開、文化・芸術の展覧会、ふるしき持参での特典など、さまざまな事業を開催しました。この度、事業件数、参加者数等をまとめましたので、お知らせします。

また、知恵博が無事終了したことを受けて感謝の集いを下記のとおり開催しますので、ご案内します。

記

1 開催結果の取りまとめ

- (1) 事業件数 808件 (当初目標 500件)
 (2) 参加者数 630万人 (当初目標 300万人)
 ・ 推進協議会、京都府、京都市、京都商工会議所が直接実施した事業 218万人
 (京の文化・産業観光フォーラム、Oike Kamogawa 京彩フェスタ、二条城お城まつり、京都・嵐山花灯路など)
 ・ 企業、団体、寺院、神社、大学、美術館、博物館などによる事業 412万人
 (3) 経済効果(観光消費効果) 547億円

2 推進協議会「総会」「感謝の集い」の開催について

期間中に実施された事業を振り返りながら、各事業に協力いただいた皆様に代表からお礼の意を申し上げます。当日は、推進協議会の委員による「総会」を開催し、本事業報告等について協議いただきます。

- (1) 日時 平成22年2月2日(火) 午後5時から(1時間程度)
 (2) 場所 ホテルグランヴィア京都5階
 (住所：京都市下京区烏丸通塩小路下ル 京都駅ビル内 電話：075-344-8888)
 (3) 内容(予定)

- ア 総会(午後5時~同5時15分、於：竹取の間)
 ・ 事業報告並びに決算見込みについて
 ・ その他
 イ 感謝の集い(午後5時~同6時、於：古今の間)
 ・ 知恵博を振り返るVTR放映

- ・ 推進協議会代表あいさつ
- ・ 事業報告等
- ・ 感謝状贈呈式

(4) 出席者(予定)

当推進協議会の代表〔山田啓二(京都府知事)、門川大作(京都市長)、立石義雄(京都商工会議所会頭)〕をはじめとする委員、協賛事業登録者等

(5) その他

- ア 当日は、記者席を用意するとともに、知恵博で展開した事業やご協力いただいた方々のメッセージなどを掲載した「記録集(A4サイズ、オールカラー、48頁)」等を配布します。
- イ ホテルの駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

3 「京都 知恵と力の博覧会」特別番組の放送について

知恵博の取組をまとめたテレビ番組を、推進協議会で企画・放送しますので、お知らせします。

(1) 放送局及び番組名

KBS 京都テレビ
「魅せます!ほんまもんの京都 ~ 京都 知恵と力の博覧会」(仮)

(2) 日時 平成22年1月31日(日) 午後7時から7時29分

(3) 内容 知恵博期間中に開催された様々な取組の紹介(約20事業)
京都府知事、京都市長、京都商工会議所会頭インタビュー
知恵博参加者・関係者等のインタビュー ほか

【問い合わせ先】

京都 知恵と力の博覧会 推進協議会事務局
〒604-0862 京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都商工会議所ビル地下1階
TEL:075-212-0089 FAX:075-212-7589 e-mail:chiehaku@kyo.or.jp
ホームページアドレス【<http://www.kyo.or.jp/chiehaku/>】